

「竜王町コンパクトシティ化構想（案）」・「竜王町ランドデザイン構想（案）」 に対していただいたご意見とそれに対する考え方について

1 まちづくり意見交換会の結果について

令和元年（2019年）7月25日（木）から8月5日（月）までの間のうち5日間、町内5か所で「竜王町コンパクトシティ化構想（案）・ランドデザイン構想（案）まちづくり意見交換会」を開催しました結果、157人の方から、235件のご意見をいただきました。

いただいた主なご意見について、内容ごとに整理し、それらに対する町の考え方を以下に示します。

なお、取りまとめにあたり、いただいたご意見の一部は、その趣旨を損なわない範囲で内容を要約したものとなっております。

2 いただいたご意見の内訳

項 目	件 数
竜王町コンパクトシティ化構想（案）	171件
子どもの笑顔があふれ、多様な交流を育む中心核	（71件）
集落・団地の機能やコミュニティの維持	（33件）
中心核と地域コミュニティのネットワークづくり	（51件）
その他	（16件）
竜王町ランドデザイン構想（案）	19件
その他まちづくり全般	45件
合 計	235件

※ 括弧書きは竜王町コンパクトシティ化構想（案）に対する意見の内数です。

番号	ご意見	ご意見に対する考え方
竜王町コンパクトシティ化構想（案）		
子どもの笑顔があふれ、多様な交流を育む中心核		
1	教育施設の集約を行うということであるが、中心核をどう利用するかが重要である。立派な中心核を整備しても、人が集まらなければ意味がない。	ご意見のとおりであり、中心核の魅力を高めるとともに利便性を向上し、多世代が交流しやすい機能を持たすなど人々が集まる場所となるよう努力してまいります。
2	これからの時代、子どもの数が減り、高齢者が増えるのに、中心核に高齢者施設がないのはおかしい。	中心核に高齢者に特化した施設はありませんが、高齢者が活躍できる場や多世代が交流できる機会を創出することとしており、高齢者にとっても魅力的な中心核となるよう検討してまいります。
3	福祉・健康ゾーンを設けてほしい。高齢化により福祉の対象者が今後、増えることが予想される。関連施設を集約してほしい。	ゾーンとして設けておりませんが、高齢者の活躍の場の創出や健康寿命の延伸など、中心核には福祉・健康的な要素も含んでおります。
4	中心核整備は何を行いたいのか。ターゲットがよく分からない。竜王小学校の整備が目的であれば、はっきりとそう言う方が分かりやすい。	中心核整備は、交流・文教ゾーンの整備をリーディングプロジェクトと位置付けております。その中でも竜王小学校の移転を最優先に行うこととしております。
5	竜王小学校の建替えにあたっては、通学路もしっかりと整備してほしい。子どもたちがしっかり勉強できる環境づくりを行ってほしい。	竜王小学校の建替えにあたっては、子ども達の安全安心を確保しつつ、現在の通学ルートを大きく変えないよう努力します。
6	竜王小学校の児童数も減少しているので、竜王西小学校との統合を考えてはどうか。幼稚園についても、統合を考えてはどうか。	竜王小学校と竜王西小学校の統合については、概ね10年後の竜王西小学校の大規模改修時に多面的に検討することとしております。幼稚園も必要に応じて検討してまいります。
7	竜王小学校について、本当に建て替える必要があるのか。長寿命化し、もう少し長く使うことができるのではないのか。	施設の老朽化や校舎の配置上の課題を解決し、これからの時代の教育ニーズに対応するためには、既存校舎の長寿命化改修では限界があるため、建替えによる新築としております。
8	竜王小学校の開校は間に合うのか。農地転用など、様々なハードルがあるのではないのか。	都市計画をはじめとする法規制など竜王小学校開校のためには様々なハードルがありますが、開校に間に合うよう計画的に取り組んでまいります。
9	竜王中学校の建替えの有無やその場所はどこを検討しているのか。	竜王中学校の建替えや移転については、現在のところ具体的な検討には至っておりません。
10	幼稚園ではなく、こども園を建設することが今のニーズに合っているのではないのか。	保護者のニーズや現場の意見などを伺いながら検討してまいります。
11	図書館の有効利用も考えてはどうか。よく利用するが、利用者自体は少なく感じる。	竜王小学校移転により図書館・公民館等と近接することで相乗効果を高めるようにします。
12	ハザードマップを見ると、中心核は水の中になる。日野川と祖父川に囲まれた中ではなく、なぜ、もっと高台に作らないのか。なぜ、真ん中に集めないといけないのか。竜王小学校も水に浸かってしまう。	現在の役場周辺には、防災センター、公民館、図書館、商業施設、診療所等があり、すでに主要施設が集約しておりますので、さらに教育施設等を集約することで利便性の向上を図るものです。今後、中心核基本整備計画の中で、水害・浸水に対応したものとなるよう検討してまいります。
13	中心核整備より日野川改修などの防災機能を強化する方が先ではないのか。	日野川をはじめとする河川改修は引き続き、国や県に要望してまいります。
14	コンパクトシティで集約することは利便性の向上にはなるが、防災面で中心核が機能しなくなった場合が心配。	中心核が機能しないことがないよう防災面には万全の対策を取ってまいります。

15	惣四郎川は、災害時に氾濫する危険性がある。構想どおりに進めるのであれば、惣四郎川の改修を一緒に進めていくべきである。	今後、策定する中心核基本整備計画の中で検討することとしております。惣四郎川への対策もその中で検討してまいります。
16	今ある農地を潰して竜王小学校を建てると、農業をやめる人もいて、人口減少に繋がるのではないか。例えば、売れ残っている工場跡地など、今すぐに開発された土地を活かす視点が必要ではないか。農地は大事なもので、できれば将来に残してほしい。	本町が考えるコンパクトシティ化構想は、町全体のバランスの取れた発展をめざすものであり、農地の保全や農業振興も含め検討してまいります。
17	土地の買収状況によって、ゾーンを変えることはあるのか。	地元のご理解とご協力が得られることを大前提として進めていくこととしており、土地の買収についてご理解が得られるよう努力してまいります。
18	住宅整備について、どれくらい住んでいただけるかしっかり見込みを立てる必要がある。	現在の竜王小学校跡地を活用した居住ゾーンについては、どの程度の需要があるのか等をしっかりと調査した上で検討してまいります。
19	中心核を整備することとあわせて、竜王町の商工業者の活性化も必要	複合ゾーンの整備計画において、町内商工業者の活性化も考慮しながら検討してまいります。
集落・団地の機能やコミュニティの維持		
20	中心部ばかりではなく、地域（字単位）の活性化も必要である。	コンパクトシティ化構想は、町全体のバランスある発展をめざすものであり、集落・団地の維持発展も検討してまいります。
21	北部地域の構想はどのように考えているのか。中心核の整備も重要であるが、周辺地域のことも同時に考える必要がある。	北部地域は道の駅を拠点としたまちづくりに向けて検討してまいります。
22	自治会の役・事業が多くて大変であり、何とかできないか。伝統を守っていくことは大事だが、子どもに引き継げるかと言われるとできない。	持続可能な自治会となるよう各自治会の主体的な取組に対して支援してまいります。
23	竜王町は都市型のまちづくりではなく、地方型・農村型のまちづくりをめざすべきではないか。地域のふれあいや支え合いがあるコミュニティを大切にすべき。	地域での支え合い活動の普及など持続可能な集落・団地となるよう支援してまいります。
24	コミュニティのあり方について、自治会費が高い。各種協会費などの半強制的なお金も多いなど、若い人が根付くようにいちから考え直す必要があるのではないか。	若い人の意見もいただきながら、持続可能な自治会となるよう支援してまいります。
25	自治会活動では、女性や若者の活躍が今後ますます重要となる。	女性や若者が活躍できる自治会となるよう支援してまいります。
26	小さな自治会では単独での活動が厳しい。今後、集落間で連携や協働で実施することも考える必要がある。	持続可能な自治会運営に手法の一つとして考えております。
27	移住について、ただ人を増やせばよいのではなく、集落の人口を増やす必要がある。	地域コミュニティの魅力を高め、定住者を確保するとともに、Uターン者を増やすよう努力します。
28	定住促進として空き家の利活用とあるが、地域の理解を得られることが大切であるため、非常に難しい問題である。	地域にとっても空き家の増加は将来の課題となることから、利活用の理解を得られるよう努めてまいります。
中心核と地域コミュニティのネットワークづくり		
29	公共交通網の再編は今すぐにでも取りかかっていただきたい。障害者、高齢者など誰もが利用しやすい公共交通にいただきたい。	移動手段の確保は喫緊の課題と認識しており、多くの方から親しまれ活用されるものとなるよう関係機関や関係事業者と調整しつつ、今年度中を目標に本町らしい公共交通の方向性を示します。

30	交通網の確保については喫緊の課題である。将来、運転免許証を返納した際の交通手段について心配である。	運転免許証自主返納者や運転免許証を持っていない方など真に移動手段を必要とされる方が安心して暮らし続けるための重要なインフラとして整備を進めます。
31	集落から中心核へ行く道路を整備する必要がある。	各地域から中心核へアクセスしやすい道路の整備に努めます。
32	企業誘致に伴って道路整備をしないと渋滞が発生し、生活に支障をきたしている。	生活道路と幹線道路の住み分けが進むようバイパス化を県や国へ働きかけてまいります。
33	自転車専用道を整備し、自動車・自転車・歩行者が安全に移動できる道路整備が必要である。	歩道、自転車道も含め安全に移動できる道路整備を進めてまいります。
その他		
34	コンパクトシティ化構想に係るコスト、スケジュールについて詳細に明示してほしい。	具体的な事業スケジュールについては、中心核基本整備計画の中で検討しお示します。
35	相当な資金投入となる。資金計画を立てる必要がある。財政的な見通しを立て、次の世代に負担が残らないようにする必要がある。	将来に大きな負担を残さないことを前提として、新たな立地企業からの税収等も考慮し、中心核基本整備計画で財政見通しをお示します。
36	2040年の人口構成をどう想定しているのか。平均年齢はどれぐらいを想定しているのか。	国立社会保障・人口問題研究所の推計では2040年に9,220人となっており、高齢化率は37.1%となっております。将来の人口構成については、企業寮への入居状況や近年建設されました集合住宅への入居状況など本町の特性を踏まえ検討してまいります。
竜王町グランドデザイン構想（案）		
37	日野川が絶対に決壊しない取組を進めてほしい。	日野川の早期改修は、国や県に引き続き要望してまいります。併せて自らの命は自らが守るという防災意識を高め、自らの判断で避難行動がとれるよう取組を進めてまいります。
38	中央通り線の交通量が多く、朝晩は信号のある場所でなければ横断できない。また、車両のスピードも出ている。交通量の分散化が必要。中央通り線、春日竜王線、県道近江八幡竜王線がメイン道路であるので、その3本で交通量の分散を図る必要がある。生活道路と幹線道路の区別も必要	生活道路と幹線道路の住み分けが進むようバイパス化を県や国へ働きかけてまいります。
39	グランドデザイン構想に係るコスト、スケジュールについて、詳細に明示してほしい。	グランドデザイン構想は、将来の竜王町の理想の姿を表すものであり、グランドデザイン構想実現のため国や県に要望するとともに、個別の取組については、その都度それぞれで検討することとしております。
その他まちづくり全般		
40	竜王町は一般個人向けの集合住宅が他市町と比べると少なく、農振地や都市計画法の関係で戸建ての建築も困難である。町の人口を増やすためには、規制緩和が必要ではないか。	法規制により住宅地が確保できていないことは本町の長年の課題であると認識しております。定住が進むよう町の魅力を高めるとともに中心核整備によって住宅地の確保を進めてまいります。
41	次世代が安心・安全して暮らせるまちづくりを今から取り組むことは必要不可欠であるが、次世代の負担となるようなまちづくりはしてはいけない。	将来に大きな負担を残さないことを前提としつつ、将来のまちの姿を示し計画的にまちづくりを進めることは必要であると考えます。
42	子ども達への環境整備も必要であるが、高齢者に対する対策も必要ではないか。	高齢者が活躍できる場や機会を創出するとともに、安心して暮らし続けるために地域の見守り支援の充実等高齢者施策もしっかりと行ってまいります。